

その他事業 1 1

〓 事業名 〓

品質向上・産地規模の拡大とPR活動による高粱産しゃくやくのブランド化事業

〓 事業の概要 〓

高粱市では、昭和47年からしゃくやく栽培に取り組み、昭和62年には栽培面積5.5haと西日本一の産地になったが、生産者の高齢化等から平成20年には1.2haにまで減少した。

そこで、JAびほく花木生産部会が中心に産地復活に取り組み、22年には2haに回復した。しかし、まだ産地規模は小さく、高粱市がしゃくやくの産地であることも市民にあまり知られていない。

そのため、JAびほく（花木生産組合）や高粱市とともに産地規模の拡大と品質向上に取り組むほか、高粱商工会議所（栄町商店街）や高粱市観光協会とも協力してしゃくやく産地のPR活動を展開した。

〓 協働の主体・役割分担 〓

協働の主体	役割分担内容
JAびほく花木生産部会	・切り花の提供・販売
びほく農業協同組合	・老朽化した園の株の掘り上げ ・品評会の開催
高粱市観光協会	・展示会PR
高粱市	・展示会開催援助 ・事業費
高粱商工会議所（栄町商店街）	・商店街への展示（花の買い上げ）
農業普及指導センター	・関係機関の調整 ・連携の推進

〓 実施状況 〓

1 しゃくやく切花の品質向上

（1）株が老朽化した園の改植と新規作付の推進

実施期間：平成24年10月10日～11月14日

古株5a分を掘り上げ、新植者も含め11aを植え付けた。



老朽化園の古株掘り上げ状況

(2) 品評会の実施

実施日：平成24年 5月25日

場 所：JAびほく本店
21点の出品があった。



審査状況

2 PR活動

(1) 栄町商店街を中心としたしゃくやく展示会の実施

行事名：しゃくやく香る栄町
日 時：5/25(金)～29日(火)
場 所：栄町大通り

(2) しゃくやくを利用したイベントの開催

①岡山駅でのしゃくやくの展示、産地PR

行事名：高粱クオリティー「芍薬」フェア 24
日 時：5/19(土)
場 所：JR岡山駅1階東口出口付近



切り花のプレゼント実施



展示の状況

②しゃくやく風呂

行事名：「くつろぎ」と「癒し」の香る「芍薬風呂」
日 時：5/19(土)～6/3(日)の毎週土・日曜日
(5/19・20・26・27・6/2・3)
場 所：朝霧温泉ゆ・ら・ら

③高粱市内でのしゃくやくの展示、産地PR

行事名：高粱芍薬フェスタ 24
日 時：5/26(土)・27(日)
場 所：ポルカ天満屋ハピータウン



共進会出品作品の展示



展示状況

|| 成果・効果 ||

- 1 収量が増加し、品質が向上した。また、高梁産しゃくやくの市場評価が上がり、生産者の所得向上が図られた。

	出荷量	出荷額	平均単価
平成24年	57,210本	4,100千円	71.7円
平成23年	41,210	2,816	68.3

- 2 新規栽培者が3名確保され産地強化が図られた。
- 3 しゃくやく産地として、市民等への認知度が上がった。

|| 来年度以降に向けての展開 ||

- 1 定期的な改植により、品質の維持と産地規模の拡大が図られるようにする。
- 2 岡山駅でのPR展示会の開催や観光園の設置・活用によりブランド化を図り、地域活性化につなげる。

その他事業 1 2

|| 事業名 || 地域ぐるみでサル害の防止を ～草間地域での実践～

|| 事業の概要 || 新見市草間地区では、収穫期を迎えた果実がサルによる食害で、営農意欲の減退、産地規模の縮小などの問題点が顕在化したため、地区と協働し、新たなサル防止対策を支援し、園芸作物の安定生産による地域活性化に資する。

|| 協働の主体、役割分担 ||

協働の主体	役割分担内容
新見市草間地区 阿新農協、全農おかやま 新見市 新見市農林業振興技術者連絡協議 普及センター	追い払い設備設置支援 補助事業対応 実証設備運営 新技術支援

|| 実施状況 ||

- 1 新規サル被害防止隊の結成
サル害防止に意欲のある地区に、新たなサル害防止対策（駐在犬システム）を紹介し取り組み希望の東村地区、大原地区に防止隊を組織して、サル害防止設備の効果実証を行った。
- 2 サル被害防止の研修会の実施
サル害防止対策について、新たな駐在犬システムや防止ネットを含む各種対策について、地域内果樹農家を対象に研修会を実施した。
- 3 サル被害防止隊相互の連携強化
サル害は防止対策をした地域から、対策をしていない地域にサルが移動してしまうため、地域が全体が連携して対応することを取り決めた。

|| 成果・効果 ||

サル害対策として、新しい対策である駐在犬システムを2地区で試験的に設置したが、高齢者でも比較的容易に設置でき経費も安価で、防止効果が高い事がわかった。
従来からの、追い払い機器（電動エアガン、ゴム銃等）や電気柵等との併用でさらに防止効果が高まるものと思われる。
地域内からも若い農業者には、狩猟免許の取得の希望者が出るなど、地域ぐるみでサル害防止対策に取り組む機運が益々高まっている。
草間地区のものについては、サル害の防止対策の徹底もあり、出荷量は前年比107%を確保することができた。

|| 来年度以降に向けての展開 ||

今年度は草間地域内2地区を中心とした取り組みであったが、防止対策効果をあげるためには地域内全体で取り組んでいく必要がある。

サル防止対策については、全国各地で取り組まれており、新たな技術情報の収集に努めていく。



サル害防止対策研修会



犬によるさるの追い払い



サル害防止ネット効果検討